

二〇二三年度 トキワ松学園中学校入学試験

適性検査型 適性検査ⅠA 問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を
書き入れなさい

次の**文章A**・**文章B**を読んで、あとの**問題**に答えなさい。

(＊印のついている言葉には、文章の後にへ言葉の説明があります。)

文章A

速読は、読書を読み終わった時点で終わらせてしまう読み方である。しかし、スロー・リーディングは、読書を読後に生かすための読み方である。

ザッと目を通したという程度では、人と語り合う際にも、曖昧で、どこもなく自信なさそうな語り口となってしまう。相手に話をふられても、「うん、ちゃんと読んでないんだけど……」だとか、「細かいところは、覚えてないんだけど……」などと、本意な言い訳をしなければならなかったという経験は誰にでもあるのではないだろうか？ そうすると、相手は、この人は、本を読んでも、何も感じない、自分の意見一つ満足に持てない人なのだと見なしてしまうものだ。普段、よく会話をする友達ならともかく、初めて会う人は、そうした言動から相手を判断するしかないのである。

見方を変えれば、読書は、コミュニケーションのための準備である。自分の考えをうまく人に伝えられないと悩む人は多いが、いきなり人前に出て、考えてもみなかった

た事態に対して、何か意見を言ってくれと言われても、難しいのは当然である。読書は、そうした現実に備えて、様々な状況を仮想的に体験させてくれる。そして、スロー・リーディングを通じて、そうした中で、自分だったら、どう感じ、どう行動するかをじっくりと時間をかけて考えておけば、思いがけない事態に直面したときにも、気負わず、普段、考えている通りのことを言えたいのである。

一冊の本を読むという体験は、誰にとっても同じものではない。独善的にならず、まずは作者の意図を正確に理解し、その上で、自分なりの考えをしっかりと巡らせることができれば、読書はその人だけの個性的な体験となる。

スロー・リーディングは個性的な読書のために不可欠な技術である。

(平野啓一郎 『本の読み方 スロー・リーディングの実践』による)

〈言葉の説明〉

独善的……他人のことはかまわず、自分だけが正しいと考えるさま。ひとりよがり。

文章B

一冊の本とのつきあいは、決して一期一会^{いちいちえ}ではなく、もつとずっと長いものである。「読んでは、ブックオフ」^{*}式の右から左への読書ではなく、「読んだら書棚」^{しよだな}式の読書で、まずしばらくは本を寝^ねかせる。そうして、適度な熟成期間をおいてから、もう一度その本を手にとってみる。その熟成期間とは、もちろん、自分自身の熟成期間である。蔵書スペースが問題ならば、PDF化^{*}する、という方法もあるだろう。

自分にとって本当に大切な本を、五年後、一〇年後、と折^ふに触れて読み返してみる。その印象の変化を通じて、私たちは自分自身の成長のあとを実感するだろう。外観の変化は、写真や動画が保存してくれる。しかし、内面の変化を実感させてくれるのは本である。

そのときに、かつて記した傍線^{ぼうせん}や書き込みは、自分自身の関心の記録になる。昔はこんなところに妙^{みょう}に感動してたんだな、とか、こっちの方が大事なのに、ここには何の印もついてないなとか、様々な発見があるだろう。そのときには、書き込みの線の歪^{ゆが}みや文字の勢い、そういったも

のすべてが当時の自分を振り返らせる手がかりとなるのである。

同じ映画を何度も見る人はいるが、同じ本を何度も読む人はだんだんと少なくなっている。しかし、本は「再読」することに価値がある。読む^{たび}度に、新しい発見をし、新しい自分自身を発見する。そうしたつきあい方ができれば、本は人生のかけがえのない一部となるだろう。

（平野啓一郎 『本の読み方 スロー・リーディングの実践』による）

〈言葉の説明〉

ブックオフ……本のリサイクルショップの名前。転じて本をリサイクルショップに出すこと。

PDF化……データの保存形式のひとつ。PDF化すると、書類をコンピューターやスマートフォンなどで、紙に印刷したときと同じような状態のまま、見たり保存したりすることができ。

このページには問題は印刷されていません。

問題

〔問題 1〕文章 A に「個性的な読書」とありますが、筆者の考える「個性的な読書」とはどのようなこと

とか、またそれによりどのようなことができるようになるか、九十字以上百十字以内で説明しましょう。

〔問題 2〕文章 B に「本は人生のかけがえのない一部と

なるだろう。」とありますが、なぜ本は「人生のかけがえのない一部となる」と筆者は考えていますか。その理由を五十字以上六十字以内で説明しましょう。

〔問題 3〕二つの文章を読んで、筆者はどのようなことを

を言おうとしているとあなたは考えますか。また、そのことをふまえて、あなたは「読書」についてどのようなことを考えましたか。いくつかの段落に分けて四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましょう。

（書き方のきまり）

○〔問題 1〕〔問題 2〕については、行をかえてはいけません。

○題名、名前は書かずに一行めから書き始めましょう。書き出しや、段落をかえるときは、一まず空けて書きましょう。

○行をかえるのは段落をかえるときだけです。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。

○読点↓、や 句点↓。 かぎ↓「などはそれぞれ一まずに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。」は、同じますに書きましょう。

○読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じますに書きましょう。

○書き出しや、段落をかえて空いたますも字数として数えます。

○最後の段落の残りのますは、字数として数えません。

○文章を直すときは、消しゴムでいいいに消してから書き直しましょう。